

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371500642
法人名	有限会社 アメニティホーム
事業所名	アメニティホーム本郷
訪問調査日	平成21年2月16日
評価確定日	平成21年3月13日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2371500642
法人名	有限会社 アメニティホーム
事業所名	アメニティホーム本郷
所在地	名古屋市名東区高柳町321-1 (電話) 052-772-5550

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(平成21年1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	9人, 非常勤 12人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (300,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成21年1月28日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 78 歳	最高 95 歳		
協力医療機関名	明德クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは3階建て建物の2、3階にあり、昨年12月に同区内に移転した。環境が変わることによって一時的に不穏になれる方もあったが、概ね入居者も職員も落ち着き、白色を基調とした明るい居間ではゲームや将棋をしたり、ソファで寛いだりとそれぞれの居場所で穏やかに過ごしている。職員は入居者の思いを大切に、一人ひとりの様々な可能性、残存能力等のからだの力、記憶の力、五感、情緒等のこころの力を生かせるよう無理強いせず見守りに心がけ、時には入居者をユニットに固定せずそっと支援している。外出や運営推進会議等の場を通じて地域との相互協力や連携作りに努め、近所の方が気軽に訪問できるようなホームへの工夫が期待される。また、職員が研修の機会や同業者との交流、連携、情報交換の機会を通じてさらにレベルアップされ、サービスの向上を図られることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は職員と話し合えるところから改善していきたいと考えている。この1年間では具体的な取り組みはされていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に評価の意義を伝え、自己評価表を渡し、説明し、全職員が取り組んだ。初めて取り組んだ人には難しい項目もあったが、前回分を参考にしたり、職員同士で話し合い、日々行っている介護への振り返り、あるいは気づきもありよかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	6月に自治会長、民生協力委員、入居者、家族、事務局が参加して開催した。事前案内で多くの家族の参加が得られた。その後、秋頃の開催予定がホームの移転で行われず次回は3月頃を予定している。認知症への理解、地域の情報収集、地域への情報発信の場として定期的開催していきたいと考えている。また、外部評価の報告も行いサービスの向上に生かしていきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時を家族とのコミュニケーションの機会とし、居室、共用空間等その方の希望の場所に対応する等話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問に対応するようにしている。家族会はないが、運営推進会議後、家族はごく自然に交流、意見交換している。重要事項説明書には相談窓口として国民健康保険団体連合会や市役所、区役所も明記している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時や公園、ゴミ出しの際には常に挨拶に心がけている。自治会に加入しているが回覧板はまだ回ってきていない。移転に伴い地域との関係づくりは振り出しに戻ってしまったが、今までのノウハウを生かし、地域の情報を得て積極的に行事に参加したり、ホームへ立ち寄りてもらえるようにしたいと考えている。落語や美容学校のボランティアの訪問は続行されている。専門学校の実習生の受け入れも行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護理念に「私たちは、利用者様の自立的生活支援を行います」を掲げ、「あきらめない」をキーワードに入居者に合った自立を目指し可能性を引き出すお手伝いを一番に心がけている。運営理念は「私たちは利用者の気持ちを大切にします」である。地域に根ざしたホームを目指しており、理念への反映について今後話し合っていきたいと考えている。		地域密着型サービスの果たすべき役割を理解し認識できるよう、理念について職員間で話し合い見直しについても検討されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々の業務で事務所に掲示されている理念を目にし、特に常勤職員は毎朝の申し送りで理念を唱和している。管理者は折を見て話しの中で理念の意識づけをはかり、入居者一人ひとりの気持ちに沿った介護に努めている。家族には入居時に説明して理解を得ており、地域の方へは共有に向け運営推進会議等の場を利用したいと考えている。		
<p>2. 地域との支えあい</p>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時や公園、ゴミ出しの際には常に挨拶に心がけている。自治会に加入しているが回覧板はまだ回ってきていない。移転に伴い地域との関係づくりは振り出しに戻ってしまったが、今までのノウハウを生かし、地域の情報を得て積極的に行事に参加したり、ホームへ立ち寄ってもらえるようにしたいと考えている。落語や美容学校のボランティアの訪問は続行されている。専門学校の実習生の受け入れも行っている。		ホームは昨年12月に移転したばかりである。散歩時や外出時には地域の方と挨拶をし、顔なじみの関係づくりに努めている。今後さらに今までのノウハウを生かし、少しずつ交流の輪を広げ地域とホームが双方に支えあえる関係づくりに期待したい。
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価の意義を伝え、自己評価票を渡し、説明し、全職員が取り組んだ。初めて取り組んだ人には難しい項目もあったが、前回分を参考にしたり、職員同志で話し合い、日々行っている介護への振り返り、あるいは気づきもあった。前回の調査での改善項目は職員と話し合いできることから改善していきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>6月に自治会長、民生協力委員、入居者、家族、事務局が参加して開催した。事前案内で多くの家族の参加が得られた。その後、秋頃の開催予定がホームの移転で行われず次回は3月頃を予定している。認知症への理解、地域の情報収集、地域への情報発信の場として定期的開催していきたいと考えている。また、外部評価の報告も行きサービス向上に生かしていきたいと考えている。</p>		<p>今年度は6月以降開催がない。会議は地域の理解、支援を得る貴重な場であり、地域交流促進のための話し合いの場であることから参加可能な人材を選び定期的な開催を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所の担当窓口等行政への定期的、積極的な取り組みは行われていない。事務長が必要に応じて書類提出に出向き、今年度はホームの移転に関する情報提供し現状を把握してもらい、サービスの質の向上に努めていた。</p>		<p>市町村担当者へホームの考え方、運営や現場の実情を積極的に伝える機会を設け、実態を共有しながら、問題解決に向け協議、共に取り組んで行くことが大切である。いつでも相談できる関係づくり、サービスの質の向上のためにも情報提供が望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族へ職員が一人ひとりの暮らしぶり、行事記録などの状況を手紙に記し送付している。家族の面会時に口頭でホームでの様子、健康状態を伝え、入居者と一緒に写真を撮ることもある。特に状態に変化があったり、来所が難しい時には電話等で速やかに連絡を取り、信頼関係を築いている。基本的にホームで金銭の預かりはしておらず、買い物時には立て替え払いし、家族へ明細書を送付して請求している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時を家族とのコミュニケーションの機会とし、居室、共用空間等その方の希望の場所に対応する等話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問に対応するようにしている。家族会はないが、運営推進会議後、家族はごく自然に交流、意見交換している。重要事項説明書には相談窓口として国民健康保険団体連合会や市役所、区役所も明記している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は今までユニット毎に固定だったが、昨年8月以降月に1人ぐらいずつ交代でユニットを異動している。入居者、職員双方にスムーズに受け入れられ良い刺激になっている。離職について入居者、家族には伝えないが特にダメージはない。新人職員は勤務帯毎に先輩職員の現地指導を受け、顔なじみの関係づくりに努め、不安、不穏への配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部の職員体制の確立に重点が置かれ、十分な外部研修の案内や受講までには至っていない。研修は参加した職員がミーティングで報告したり、講習内容を印刷、回覧、あるいは個々に配布し、情報を共有し介護の質の向上を目指している。応急手当の訓練の必要性を感じており、消防署へ依頼したいと考えている。また、職員に対する育成教育の取り組みも実施したいと思っている。</p>		<p>職員各自の立場、経験に応じた段階的な学びの必要性を理解し、研修会の参加やホーム内で勉強会の時間を確保し、職員の質の確保、向上に向けた育成に努められることに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）に加入し、管理者が研修会に参加している。愛知県認知症グループホーム連絡協議会、名古屋市認知症グループホーム協議会に加入し、昨年8月までは概ね管理者兼事務長が参加していた。名東区内でグループホームのネットワークはなく他事業所の意見交換、情報交換はされていない。職員や入居者が同法人の塩釜のホームの行事に参加したり、名東へ招待したりといった交流は図られてはいない。</p>		<p>管理者や職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上に努められることに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>最大1週間の体験入居を実施しており、職員や入居者と過ごし、コミュニケーションをとり、少しでも場の雰囲気を感してもらいたいと思っている。本人からの話に耳を傾け、不安にならないよう受けとめ話をしている。様々な角度からの気づき、本人や家族の困っていること、疑問や不安、実情や要望などを聞き対応できることはすぐに対応できるように話し合い、信頼関係の構築をはかっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>三食を共にし、生活活動全般（掃除、料理、洗濯等）や行事、カラオケ、ゲームを通じて楽しみを共有し、介護される一方で、共に暮らす者として入居者に尊敬の気持ちを持ち、人格を尊重したサービスに心がけ、共感し支えあう関係づくりに努めている。若い職員は諺、言い回しなど昔のことを教えてもらうことも多く、日々の関わりの中で職員が手を出し過ぎず上手く見守り、残存能力を生かす工夫をしている。入居者と職員がマンツーマンで対応している時に「ありがとう」と感謝されたり、励まされることもある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族よりの聞き取りや入居後の関わりを通じて希望や意向等の把握をしている。把握が困難な場合には入浴介助時等マンツーマンの時のつぶやきや表情、態度、行動を観察し介護に生かしている。入居者の立場になって考え、関心や興味を示されることへは焦らず意欲や活力を引き出す工夫をし、また、職員各々の視点の違いによる情報収集も貴重な情報源として役立てている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が職員から入居者の状態を聞き取り、ケース記録や夜間の報告を基に介護計画を作成している。ミーティングでできた計画について話し合い確認し完成させている。家族には月毎の担当職員が日頃の様子を便りに書き一緒に見せ確認印をもらっている。来所の少ない家族には封書で送り同意の印をお願いしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の援助目標は短期3カ月、長期6カ月としているが変更がなければ通常6カ月の見直しになっている。状態に変化があり作成しなおす時は必ずモニタリングをして見直しを行っている。変更が無く継続する場合も見直しをして家族に報告し了解をもらっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医や協力医療機関以外の通院は家族の付き添いをお願いしているが、家族の都合により通院介助をしたり、個別の外出など状況により支援している。飲み込みや咀嚼力が弱まり食事摂取が難しくなった入居者へは段階に応じて食事形態を変え援助している。ホームの状況を見て外部の人の一時的緊急受け入れをしたこともあり大変喜ばれた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>数名の入居者は家族の付き添いで今までのかかりつけ医に受診している。協力医療機関以外の科に受診する場合もホームは受診結果の報告を受け職員と共有している。かかりつけ医を協力医療機関へ変更する場合は契約時に本人、家族から同意を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>今後24時間を考えていく医療体制が必要となってきたため、入居者、家族の希望を聞き重度な異変や緊急事態時も看護師、主治医、医療機関と連絡をとり一緒に対応をしできる限りの看取りをしていきたいと考えている。家族には指針を渡し、意見、希望を聞き署名をいただいている。今までに2名の看取りを経験している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳と権利を守るために生活歴を充分把握し対応している。日々言葉かけにも注意し敬意をもってかかわっている。トイレへの介助も尊厳を大切にし他人に分からぬよう本人の意に沿って支援している。個人の書類は事務室に保管されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが、職員は入居者の顔を見て気持ちを汲み取りながら介護するよう心がけている。食事、就寝などは体調や精神状態、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿ったその人らしさの実現に向け支援している。訪問時に共用空間で朝食を摂っている入居者の姿がみかけられた。午前のお茶の時間にはいくつかの飲み物を用意し、好きな飲み物を選んでもらうようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はテーブル拭きや食事の盛り付け等準備や後片付けにかかわっている。職員は入居者と一緒に会話をしたり、介助をしながら食事をしており、楽しい雰囲気を感じられた。メニューは冷蔵庫の食材で入居者の好みのものを作っている。入居者は嫌いな物はほとんどなく何でも喜んで食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回昼食後に入浴している。体調や季節によりシャワー浴を行っている。2階の浴室には機械浴の設備があり、2名の方が利用している。入浴嫌いな人もいるが、声かけを工夫しながら誘ってみるが、それでも難しい時には無理強いをせず清拭に変更している。一人で入られる人は、職員が見守り楽しんでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いやレクリエーション、散歩が役割や楽しみごとになっている。書の得意な方に今月の努力目標を書いてもらっている。ホーム6周年の記念式典の式次第も書いていただいた。俳句が趣味な入居者が毎日作品作りをしており、NHK学園の通信教育で勉強している。ちぎり絵を作る時は、紙ちぎり、貼るなどそれぞれの力に応じたことをしていただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や散歩、喫茶店へ出かけている。陽気の良い日は公園へ茶菓を持って出かけ外気と雰囲気を楽しんでくる。以前は皆一緒に散歩など出かけていたが、最近では体力の低下により車椅子、手引きなど調整し、少人数ずつ出かけている。春秋には平和公園や小幡緑地へ2、3階全員で家族にも呼びかけて出かけ季節を味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の周辺は交通量が多く、帰宅願望の強い人もいるため玄関は施錠している。居室の横が階段になっていることもあり危険防止のため、各ユニットの入り口ドアも施錠されている。以前は1階だったが、現在階上のため誤って窓から外へ出た場合の危険防止で窓に施錠している部屋もある。近所へ見守りや声かけの依頼はまだされていない。		周辺の交通量や建物の構造上危険防止のため、ところどころの施錠はやむを得ないが、閉じこもりがちになることも考慮し、それを補う方法を職員全員で考えていかれることを期待したい。また、外へ出て行かれた時に備え、近所へも見守りや声かけの依頼をされていくことにも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行なっている。入居者の様子を見て参加できる人を対象に行っており、車椅子の人を3人がかりで避難させたこともある。消防署の講習会には施設長が参加している。地域住民の協力への働きかけを今後行いたいと考えている。水分、食物は1週間程備蓄しており、定期的に期限を見て新しいものに取り替えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師による食事制限のある入居者はいないが、体重増加により茶碗の大きさや盛る量で加減している人はいる。塩分制限の人もいないができるだけ薄味に心がけている。水分摂取量は1日1リットル以上を目指し、起床後、毎食後、ティータイム、入浴後、レクリエーション後などに摂取している。塩釜の同法人ホームに栄養士がおり、そのメニューを参考にすることもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は外からの明かりや日差しに恵まれ、テーブルやソファに座りトランプをしたり、会話をしたり思い思いに過ごしていた。廊下にはクッションのきく椅子が向い合わせに置かれ、入居者同志が座って会話をしたり、職員を誘って座ったりと車中にあるような快い気分を味わえる場にもなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札に自分で作ったひな人形の折り紙が飾ってあった。畳に馴染んだ人には家族が畳を敷き布団をひいて居心地よく過ごせる工夫をしていた。持ち物を置くスペースとして上に棚をつけ各自それぞれに使用している。冷暖房管理は職員がしており、夜間は温度管理に気を配っている。日中はほとんどの入居者が居間にいるので窓を開け空気の入替えをしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。